

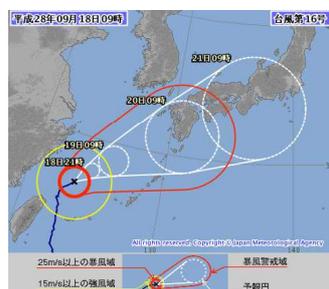
鹿児島島の地質43

鹿児島島の自然災害

地質担当 多久島 徹

さまざまな災害

先月9月20日に非常に強い台風16号が県本土に上陸しました。この台風で大隅半島や南薩地方を中心に、住家の全半壊や、床上・床下浸水の被害が出ました。また、台風による降雨により、土砂災害も発生しています。鹿児島県は、今回のような台風・豪雨による風水害や土砂災害、火山の噴火や地震などさまざまな自然災害が発生しています。



台風16号の進路

引用:気象庁

地震

今年の4月、一連の大きな地震が熊本県で発生し、大きな被害をもたらしました。その



熊本地震

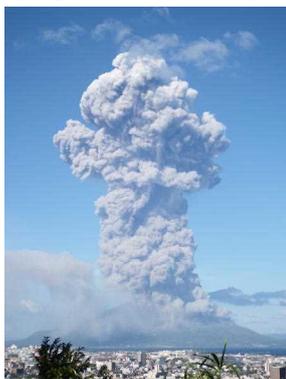
傷跡は今なお大きく残っています。この地震で鹿児島県でも最大震度5弱を観測していません。大きな被害は出ていませんが、地震のゆれで恐怖を感じた人も多かったのではないのでしょうか。

鹿児島県でも1997(平成9)年に「鹿児島県北西部地震」と呼ばれる大きな地震が発生しています。熊本地震と同じような内陸部の横ずれ断層型の地震です。地下の岩盤に力が加わって生じた断層は、今後もずれて、地震が発生する可能性が高いと考えられます。

火山噴火

近年では、2011(平成23)年の新燃岳、2013(平成25)年の桜島、2015(平成27)年の口永良部島の噴火で大きな被害が出ています。

新燃岳では降灰や噴石、桜島では降灰、口永良部島では降灰や噴



桜島の噴火
(2013年8月16日)
提供:中村京平氏

石、そして火砕流による被害が出ています。口永良部島ではその後の降雨により、土石流も発生しています。火山災害の中でも、最も注意しなければならないのは火砕流です。この高温の火山噴出物は時速100kmを越える速さで山腹を流れ下り、周囲のものを焼き尽くしてしまいます。1991(平成3)年の雲仙普賢岳(長崎県)で発生した大火砕流では43人の尊い命が失われました。



口永良部島の火砕流(灰色の部分が火砕流に被災したところ。低温だったため木々は焼けていない。)

風水害・土砂災害

台風や集中豪雨、長雨などによって、河川の氾濫や土砂による災害が発生しやすくなります。特に、県本土は急峻な崖を形成するシラス台地や火山灰や軽石が堆積した地層、花こう岩が風化したマサなど土砂災害が発生しやすい地形・地質なので、



平成5年8月豪雨による土砂災害

提供:国土交通省九州整備局

我が家の防災マニュアル

これらの自然災害から私たちが身を守るためには、常に災害を意識しておくことが必要です。鹿児島県や自治体、各機関から提供される災害情報に注意しておきましょう

住んでいる地域で起こりうる災害を想定し、どのような行動をとるか、家族で考え、「我が家の防災マニュアル」をつくってみてはいかがでしょうか。